

第33回全日本少年サッカー大会

2009年 8月吉日

兵庫フットボールクラブ
代表 永浜 和紀

兵庫FC 初の「ベスト8」進出！

全国大会記録 福島県 Jヴィレッジ

7月31日(金) 午前6時 加古川を出発
午後3時頃、静岡県裾野IC近くの「時の栖スポーツセンター」で練習・宿泊。
長旅の疲れをみせず、選手18名は元気にトレーニング。疲労の色が濃いのは、
引率の指導者だけ。

8月 1日(土) 午前7時、宿舎を出発。
午後1時、全国大会会場「Jヴィレッジ」到着。受付をすませ、
午後3時30分、開会式。
各都道府県を勝ち抜いた精鋭48チームが並ぶと、壮快。
午後7時、宿舎に入り、ミーティング。明日に備えて完全休養。
子ども目がきらきらと輝いている。

8月 2日(日) 待ちに待った試合が始まる。いつになく緊張する選手。そんな中で、みんなの気持ち
を和ませてくれたのは、ムードメーカー工藤選手。

午前11時30分 キックオフ

兵庫FC 1 - 0 ともぞうFC (栃木県代表)

緊張感の成果、互いに決定機を作れないまま後半へ。失点の気配はないが、得点チャンスもない重苦しい雰囲気打ち破ったのは、得意のコーナーキック。ショートコーナーからのこぼれ球を街がシュート。第一の難関をクリア。

午後4時30分 キックオフ

兵庫FC 1 - 2 FCアルマ (岐阜県代表)

集中力の高い、兵庫FC本来の試合ができると確信を持って臨んだ試合であった。しかし、前半から体が重く動けない。そんな中、前半終了間際、杉浦のミドルシュートで先制。前半が終わって帰ってくる姿は、肩を落とす下を向いている選手。「こんな調子では、後半逆転されるぞ。」「全国は甘くはないぞ。」と叱咤激励。しかし、予想通りボールを回され、ゲームを支配される。全く予想していなかった展開にベンチにも動揺が走る。どんな声を張り上げて選手も心は躍動せず、完敗。

宿舎に帰ってからは、原因追及のミーティング。タイムスケジュール通りの調整で、身体的にも精神的にも原因が見つからない。堀江コーチに子どもたちにつきっきりで管理してくれている。何の問題もないはず。動けない原因を、昼食の取り方ではと感じた。合宿や遠征では、「出された食事はすべて食べる。」と指導している。サッカー協会の提供してくれた昼食のボリュームは、相当な量。スパゲティー・ご飯・コーンスープ・バナナ・オレンジジュース、すべてを子どもたちは平らげていた。普段の昼食は試合の時間を計算して、弁当半分あるいは3分の1と、コンディションと相談しながら食べさせている。指導者の完全なミス。

さらに、窮地に立たされた状況を打開するには、一糸乱れぬチームワークとメンタルの強化。土壇場で発揮する「火事場の馬鹿力。」をどう引き出すか。

「FCアルマ戦の力が実力なら、残り3戦での勝利はない。それなら、全員に出場機会を与え、全国大会で全員のレベルアップをはかる方法もある。」とスタッフミーティング話した。堀江コーチは、「最後まであきらめない、ということしか考えていない。」と反論。「その選択をするなら、試合に出られない子どもが出るが、それでもいいかという子どもたちの決意がある。」こんな話し合いが続いた。どんな方法をとるにしても、スタッフが決意するためには、指導者の中での葛藤があって初めて決意が子どもに伝わる。

堀江コーチの提案で子どもたち同士の話し合いが深夜まで行われた。「試合には出たいが、最後まで勝利を目指してほしい。」という、ベンチスタートの選手の涙ながらの声。堀江コーチの思いは子どもたちの心に突き刺さった。

8月3日(月)

午前11時30分 キックオフ

兵庫FC 2 - 0 サガン鳥栖 (佐賀県代表)

開始早々から、目が輝き、ボールを追いかける姿が昨日の2試合目とは違う。素早い読みと動き出しの速さで相手チームを圧倒し、決定機を何度も作る。ゴールを外してもチームの雰囲気は、変わらない。そんな中での先制点。見違えるプレーで、ゲームを支配し、勝利。

午後2時30分から 『少年サッカークリニック』

8名の選手が参加。全国大会のお祭り気分と逆に真剣なまなざし！

午後4時30分 昨日と同じ時間帯での昼食。摂取量をコントロールさせ、昨日の試合開始時間におなかの調子を調査すると、「昨日は食べ過ぎていた。」という感想。コンディショニングの失敗の原因が明確になり、明日への展望も開けた。

8月4日(火)

午前10時30分 キックオフ

兵庫FC 1 - 1 ファナティコス (群馬県)

独特のゲームプランを持ったくせ者チーム。相手の攻めに対応できず、中央を突破され、ゴールを決められる。苦しい前半が終わった。しかし、選手は最後まであきらめなかった。相手の攻めにも慣れ、後半開始から猛反撃。一人一人が自分の役割をこなし、対応できると、攻撃にいい影響が出始めた。そんな中での森山の同点シュート。逆転まではいかなかったが、兵庫FCらしい攻撃が次ぎの試合に生かされる結果となった。

午後4時30分 キックオフ

兵庫FC 2 - 0 FC上西郷 (福岡県)

レベルの高い福岡を勝ち上がったチーム。スピードのある攻撃で能力の高いFWをいかに止めるかが課題であった。しかし、試合開始から、相手チームを防戦一方に押し込み、両サイドからドリブルで切り崩しての攻撃が相手チームをあわてさせた。サイドから崩してゴールを狙う兵庫FCらしさがこの大会で初めて結果を出した。予選リーグ最高の試合で、決勝トーナメントに進めたことが嬉しい。

大会初日の苦しいスタートから、目標の予選リーグ突破を成し遂げた選手の精神力とチームワークを褒め称えたい。大会二日目の朝、バスの中で歌った「栄光への架け橋」 この歌の歌詞と同じ心境。この歌の歌詞をメモし、コピーしてくれた河元コーチの思いが子どもたちに伝わった。子どもたちは一生この歌を歌い続けるでしょう。苦しいとき、きっとこの歌を歌って、頑張り抜いてくれることでしょう。

8月5日(水) 16チームによる決勝トーナメント 1回戦

午前9時30分 キックオフ

兵庫FC 0 - 0 大宮アルディージャ(埼玉県)

PK 5 - 4

アルディージャの情報を集めることができた。守り方と攻め方のスタンスが分かっていたので、番狂わせを期待して、試合に臨んだ。しかし、試合前、とんでもないアクシデントが……。スタメンの選手がユニホームを忘れていないことに気付いた。試合10分前のメンバー変更。そんな状況の中で交代出場した山村君の頑張りが、チームを救った。FW・MF・DFとどこのポジションでもこなしてくれる彼の存在がチームを救った。試合出場の機会が少ない立場を理解し、いつ声がかかっても頑張るモチベーションを維持してしてくれた彼の精神的な強さが、この試合の勝利をもたらしてくれたと思っている。

決勝トーナメント 準々決勝

午後3時 キックオフ

兵庫FC 1 - 2 川崎フロンターレ (神奈川)

ここまで勝ち残れたのは、DF人の頑張り。一度もサイドを割られることなく、堅実な守備でゴールを死守してきたが、川崎の2点は、共に完璧なゴール。1点目は右サイドからのクロスボレーシュート。2点目は、左サイドからのクロスヘディングシュート。どうしてもないレベルの差を感じた。しかし、兵庫FCの選手も完璧な崩しから一度は同点ゴールを奪った。町の小さなクラブでも、頑張ればできることを子どもたちが教えてくれた。試合終了後、フロンターレの選手が、出口の前で並び、兵庫FCの選手を握手で送り出してくれた。スポーツマンの素晴らしい姿を見せてくれた子どもたち。そんな子どもたちと関わり合えるすばらしさを改めて感じた。

8月6日(木) 午前10時 宿舎出発

常磐自動車道 磐越自動車道 北陸自動車道 名神高速自動車道

午後10時神戸到着

7月31日(金) 出発してから、8月6日(木)までの走行距離、約2200km。

帰りは応援の選手7名と共に、帰路につきました。大会初日2試合目、コンディショニングの調整ミスから大事な試合を落としましたが、子どもたちの結束力で難局を切り抜け、決勝トーナメントに進出。ベスト8は、兵庫FCの歴史上初の快挙。兵庫県勢としても最高の記録です。

兵庫FCの記録では、決勝トーナメント1回戦で敗れベスト16が最高でした。今回は、大宮アルディージャというJ下部組織のチームに勝利しベスト8。この事実は、大きな自信を子どもたちに与えてくれました。その自信が、川崎フロンターレとの試合でも発揮されました。結果は残念でしたが、堂々と戦った姿は、立派でした。

個人の育成を最優先させる兵庫FCの指導理念。一人一人の個性を引き出し、その個性を發揮できるチーム戦術で勝利を目指す。試合に勝てなくても、個人が伸びることを優先する指導理念。しかし、その中で勝利できる戦術を模索して、長い年月、子どもたちの指導に取り組んできました。

- ・勝利にこだわれば子どもが伸びない。
- ・勝利よりも選手育成、現在よりも、将来伸びる選手。

という理屈も理解できますが、今伸びない選手は、将来も伸びない。一人一人の個性を伸ばし、目の前にある障害に打ち勝つ一人一人の個性を育成すれば、当然のように勝利はついてくる。矛盾だらけの試行錯誤の中から、新しい兵庫FCの指導理念を作り出すべく、昨年12月から、取り組んできました。

4月からは、従来の兵庫FCの指導とは違う方法で、子どもたちに接し、チーム作りに取り組みました。不安だらけでしたが、子どもたちの力が私自身の不安を打ち消してくれました。これからは、自信を持って今の取り組みを続けていきます。

4月からは、私の足りないところを補ってくれる堀江コーチがスタッフ入りし、選手育成においては、さらに充実することでしょう。

多くのチームの胸を借り、共に選手育成という視点で協力してくださった指導者の皆様に感謝しています。また、多くの支援をいただいた、兵庫FC登録選手の保護者の皆様・OBの皆様に心より感謝します。